

茨城県総合計画審議会・総合部会（第2回）

平成22年4月26日(月)

茨城県庁 9階講堂

午後1時開会

司会

皆様、こんにちは。定刻前ではございますが、ご出席の皆様全員お揃いになりましたので、ただ今から、茨城県総合計画審議会の第2回総合部会を開会いたします。

まず、議事に入ります前に、配付資料の確認をお願いいたします。

お手元に配付資料としまして次第の綴りがあると思います。次第の綴りの下に配付資料一覧ということでもとめておりますが、次第と席次表、総合部会の委員の皆様の名簿が載ったものが一つの綴りとなっております。

さらに、資料1としまして、「新しい県総合計画の全体構成(案)について」、その次に「基本構想(案)の概要について」という1枚の資料がございます。

次に、資料3といたしまして、「基本戦略(案)及びいばらきモデル推進プロジェクト(案)について」というA4を横にした形のものがあります。

さらに、資料4といたしまして、「基本構想(案)等に対する委員の意見について」というものがございます。

また、資料5といたしまして、「人口・経済の見通しについて」というものがございます。

以上、資料1から5までございまして、その後、参考資料といたしまして、「新しい県計画に関する市町村意向調査結果の概要」を付けてございます。

あと、お手元には、総合計画の計画書とパンフレットをご用意させていただきました。

以上、足りないものがございましたらお申し出をいただきたいと思いますが、いかがでございでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、会議の進行につきましては、蓮見部会長さんをお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

部会長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

皆さんのお手元に配られました総合部会次第を見ていただきますと、今日は13時から15時まで約2時間の会議時間でございます。できるだけ効率的に、多くの皆さんから貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

それでは、まず、議事(1)として、新しい県総合計画の全体構成(案)について、事務局からご説明をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○参事兼企画課長

企画課長の仙波でございます。

私のほうから説明をさせていただきます。

ご説明に入ります前に、本日の資料についてでございますが、事前に委員の皆様にお配りをし、ご意見をいただいておりますが、資料につきましては、その後、内部で検討し、若干修正を行っております。本日はその修正したものでご説明をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議事(1)「新しい県総合計画の全体構成(案)」についてご説明させていただきます。

計画の全体構成の大枠につきましては、前回の総合部会においてお示しをし、概ねご理解を得たところでございますが、今回はこれをもとにした基本的な考え方や細かい構成について事務局の案をご説明したいと思います。

お手元の資料1の1ページでございます。

新しい県計画の基本的な構成につきましては、いばらきづくりの基本方向等を定めた「基本構想」と、これらを踏まえた「目標実現に向けた取組」、「計画の推進」の3部からなるものとしているところでございます。

また、今回の計画は、県民と行政とが協働でいばらきづくりを進めていくための指針としまして、誰が見てもわかりやすく、できるだけコンパクトなものにしたいと考えております。

まず、第1部の基本構想でございますが、概ね四半世紀後を展望しながら、いばらきが目指す基本方向として、県民と共有できる基本理念や、住みよいいばらき、人が輝くいばらき、活力あるいばらきの3つの目標と目指すべき将来像等を示したいと考えております。

次に、第2部の目標実現に向けた取組では、第1部の基本構想を踏まえまして、今後5年間に推進する基本的な政策やその取り組みの方向を基本戦略及び基本施策として示しますとともに、政策分野を横断し、先進性の高い取り組みをいばらきモデル推進プロジェクトとして位置づけてまいりたいと考えております。

また、地域づくりにつきましては、各地域における特性に応じた地域づくりの基本方向として示してまいります。

第3部の計画の推進では、計画の着実な推進を図る手立てを示してまいりたいと考えております。

続きまして、2ページでございます。

こちらにつきましては、これから計画の具体的な中身を議論していただくに当たり、全体の構成をイメージしていただくため、ただ今ご説明しました新計画の構成(案)を左側に章立てで記載し、右側の現行計画との比較ができるように作成したものでございます。

したがいまして、項目名等につきましては、現時点での名称でございますし、今後、それぞれの中身の議論が進む中で、こういう順番のほうがよいとか、あるいは、これを加えたほうがよいなどの意見が出てくると思いますので、必要に応じ修正をしてまいりたいと思っております。

なお、この全体構成の具体的な内容につきましては、3ページ以降でご説明をさせていただきますので、そちらをご覧くださいと思います。

主なポイントについてご説明させていただきますと、まず、計画の冒頭に、はじめにということで、計画の趣旨や構成、目標年度といった計画の基本事項を記載してまいります。

次に、第1部の基本構想でございますが、第1章に時代の潮流といばらきの特性等ということで、新しい計画の前提となる時代の潮流やいばらきの特性、県民の期待について整理してまいりたいと考えております。

その下の第2章 いばらきづくりの基本方向では、計画の根幹となる基本理念や3つの目標と目指すべき将来像、人口・経済の見通しをわかりやすく示してまいりたいと考えております。

なお、こちらにつきましては、これまでの審議におけるご意見を踏まえ、事務局の試案を委員の皆様事前に示しをしておりますが、この後ご説明させていただきたいと考えております。

また、人口・経済の見通しには、本県の人口や経済の見通しを示してまいりたいと考えており、本日、議事(4)でご説明を行いたいと考えております。

続きまして、4ページでございます。

第2部の目標実現に向けた取組でございます。

こちらにつきましては、第1部の基本構想を踏まえ、5年間に推進する基本的な政策やその取り組みの方向として、第1章に、基本戦略、基本施策及びいばらきモデル推進プロジェクト、第2章に地域づくりの基本方向を示しております。

まず、第1章のうちの基本戦略の構成としましては、3つの目標に対応する基本戦略を政策分野別に示し、それぞれの戦略について、基本戦略の目的及び考え方とその目的を達成するために取り組む基本施策を戦略の基本方向として示してまいりたいと考えております。

次に、Ⅱの基本施策でございますが、基本戦略の下に設けた基本施策ごとに、現状と課題、施策の基本方向、数値目標及び各主体の役割分担を示してまいります。

また、これまでの審議において、委員の皆様からの新しい県計画についてはさまざまな分野におけるいばらきモデルの打ち出しが必要であるというご意見を踏まえまして、基本戦略、基本施策とは別に、政策分野横断的な先進性の高い取り組みとして、Ⅲのいばらきモデル推進プロジェクトといった形で整理して示してまいりたいと考えております。

なお、基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクトにつきましても、この後、事務局の案をご説明させていただきたいと考えております。

次に、第2章の地域づくりでございますが、基本構想を踏まえながら、各地域の特性等に応じた地域づくりの基本方向を示してまいりたいと考えております。

最後に、第3部の計画の推進についてであります。今回の総合計画を着実に推進するための考え方や進行管理などについてここで示してまいりたいと考えております。

新県計画の全体構成(案)の説明につきましては以上でございます。

○部会長

ありがとうございました。

説明いただきました全体構成のうち、本日の審議の中心となります議事(2)の「基本構想の概要」及び議事(3)「基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクト」について、続けて事務局からご説明いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○参事兼企画課長

それでは、議事(2)「基本構想(案)の概要」についてご説明させていただきます。

お手元の資料2をご覧くださいと思います。

基本構想では、概ね四半世紀を展望した上で、時代の潮流や県の特性を踏まえた、これからのいばらきづくりに当たっての基本理念と、その目指す姿や3つの目標とその将来像、さらに人口と経済の見通しを示していくこととしております。

第1章 時代の潮流といばらきの特性等では、少子高齢化やグローバル化などの本県を取り巻く時代の潮流と、優れた地域資源などのいばらきの特性、さらに、各種懇談会やアンケート調査により聴取した県民の期待を示してまいります。

そして、第2章 いばらきづくりの基本方向では、これら時代の潮流や県民からのご意見、さらにこれまでの各部会の審議におけるご意見を踏まえて、試案として、『協創と貢献』という基本理念を提示させていただきました。

この「協創」とは、心豊かで質の高い生活と社会を協力して共に創っていきこうということでありまして、「貢献」とは、さまざまな分野で本県が日本を支える枢要な県となり、日本と世界に貢献するという意味合いと、県民や事業者などのさまざまな主体も社会の中の役割のもと、未来のいばらきづくりに貢献するという二重の意味があるものと考えております。

こうした考え方をうまく反映していきたいと考えていますが、現時点でなかなかうまく表現されていない面もございまして、委員の皆様から事前にご意見もたくさんいただいているところでありますので、これにつきましては十分ご審議をいただき、検討してまいりたいと考えております。

また、この基本理念の目指す姿として、誰もが人のやさしさを感じながら、安心して住み続けることができる県、一人一人が社会の中で役割を持ち、尊び合い、高め合える県、これからの時代を切り開く独自のモデルを創造し日本と世界に貢献する県の3つを提示させていただきました。

さらに、このような基本理念の考え方にあわせまして、資料の一番上に記載してございますが、新県計画のキャッチフレーズを「生き生きいばらき「協創」プラン」として提示をさせていただいたところでございます。

次に、3つの目標と目指すべき将来像についてでございます。

誰もが安心して健やかに暮らすことのできる「住みよいいばらき」につきましては、将

来像といたしまして、誰もが安心して保健・医療・介護・福祉サービスが受けられる県、県民の暮らしの安全が確保された県、豊かな自然を守り、環境負荷を減らし、環境と調和した生活が送れる県、暮らしの中に美しさや潤いがあり、誰にもやさしく快適に暮らせる県の4つを描き、整理しております。

また、世界に貢献する元気な産業や生活を豊かにする産業が集積し、交流が盛んな「活力あるいばらき」につきましては、将来像として、日本における科学技術研究の枢要な拠点として世界の発展に貢献できる県、国際競争力あるものづくり産業や生活に結びつく産業が盛んで、豊かな暮らしを実現している県、一大食料供給基地として日本の食を支えている県、世界に開かれ、人・もの・情報の交流が盛んに行われ、地域が活性化している県の4つを描き、整理したところでございます。特に今回は、活力ある産業が生活を豊かにしていくというイメージや、日本や世界に貢献していくというイメージを描き込んでおります。

さらに、誰もが主体的にいきいきと活動し、社会に貢献できる「人が輝くいばらき」につきましては、3つの目標の中でも基盤的な目標として位置づけまして、こちらの図では、ほかの2つの目標を支えるイメージから、その下に幅広に描かせていただいております。

将来像につきましては、地域全体が一体となって次の世代を育むとともに、誰もが目的意識を持って個性や能力を伸ばす県、誰もが郷土の歴史や文化を大切にしながら、健康で明るく豊かな生活を送る県、誰もが個性や能力を活用して社会で活躍し、地域づくりの主役となっている県の3つを描き、整理したところでございます。

続きまして、議事(3)「基本戦略(案)及びいばらきモデル推進プロジェクト(案)」につきましてご説明をさせていただきます。

資料3でございます。

基本戦略(案)につきましては、先ほどご説明しました3つの目標ごとの将来像に対応する形で、政策分野別に戦略を示しております。

まず、「住みよいいばらき」の基本戦略としては、左側から、充実した質の高い医療や保健・介護・福祉サービスによる県民の暮らしの安心確保に関する戦略であります。

括弧書きは、政策分野をあらわしております。

次に、防犯や交通安全など県民の暮らしを守る安全確保に関する戦略、また、豊かな自然環境を守り、地球温暖化対策など、県民が総力を挙げて持続可能な社会の実現に向けた戦略、さらに、快適な生活環境を備えた人にやさしいまちづくりに関する戦略の4つの戦略を提示しております。

続いて、「人が輝くいばらき」の基本戦略としては、左側から、県民誰もがそれぞれの個性や能力に応じた役割を主体的に担っていくことができる教育の推進に関する戦略であります。

次に、道徳教育や食育などを通じて豊かな心や郷土を大切に作る心を育むとともに、生涯にわたって活躍できる健康づくりに関する戦略、さらに、誰もが自分の持つ力を発揮し

て社会の中で活躍し、自己実現を図ることができる場づくりに関する戦略の3つの戦略を提示しております。

「活力あるいばらき」の基本戦略につきましては、左から、最先端の科学技術拠点の形成など、科学技術の振興が世界の発展に貢献する戦略であります。

次に、国際競争力ある産業と生活を豊かにする産業づくり戦略、また、日本の食を支える食料供給基地づくり戦略、さらに、広域交通ネットワークを最大限に活用し、世界にもつながる観光の振興や交流人口の拡大などに関する戦略の4つの戦略を提示しております。

続きまして、その下のいばらきモデル推進プロジェクト(案)につきましては、委員の皆様からご意見のありましたいばらきモデルにつきまして、計画期間の5年間において、本県の優れた特性や地域資源を活かしながら、県全体で総力を挙げて取り組む政策分野を横断し、かつ、日本をリードする先進性の高いプロジェクトと位置づけたものでございます。

皆様にお送りしました当初の案では戦略として考えておりましたが、戦略よりも、より施策レベルの内容が想定されますことから、プロジェクトとして整理したものでございます。

現在、どのようなプロジェクトが考えられるのか、県庁内で検討を行っているところですが、例示として、いばらきイメージアップやブランド価値創造に関するプロジェクトや、いばらき型ライフスタイルに関するプロジェクト、地域コミュニティの再生や新たな公に関するプロジェクトなどをお示ししております。今後、さらに基本戦略や基本施策を検討する中で整理をしていきたいと考えております。

ただ今ご説明しました基本構想や基本戦略等につきましては、本日の総合部会での検討のたたき台として事務局の案をお示ししましたが、これらにつきましては委員の皆様から事前にご意見をいただいております。

資料4にありますとおり、項目ごとにご意見の整理をさせていただきましたので、よろしくご審議のほどお願いをしたいと思います。

説明については以上でございます。

○部会長

ありがとうございました。

ただ今、事務局の仙波課長さんからご説明いただいた内容については、事前に皆様にお示しをしてお意見をいただきまして、それがお手元の資料4のような形でまとめられています。これに基づきましてこれから議論をお願いしたいと思うのですが、議論につきましては、基本理念、目標と将来像、基本戦略といばらきモデル推進プロジェクト、そして、全体構成についてと大きく4つのテーマがあると思いますが、時間で測りますと、大体1つ20分ぐらいでまとめていかなければいけないと思っております。

ただ、本日は、これで完璧なものにして終わるということではなく、事務局から示されましたたたき台に皆さんのご意見を反映させて、さらにより良い形にブラッシュアップして、そして、この後、各専門部会の議論等でさらにもんでいただくことになると思っております。

ので、どうぞ忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

資料4ですが、多くのご意見をいただいたD委員さんなど、委員の皆さんから事前に活発なご意見をいただきました。部会長の意見がないではないかと言われてしまいそうですが、私は前もってみなさんからのご意見を拝見させていただき、私としての考えも用意してきておりますが、まずは皆さんのご意見を率直にお聞きすることが大事だろうと思っておりますので、よろしくご発言をお願いします。

お手元の資料を見ていただきますと、最初に川上副部長さんのとても良くできているというご意見がある一方で、いろいろな問題の指摘が様々に述べられております。特に議論が多かったのは、今回、新たに設定する基本理念の部分だと思えます。今まで基本理念がなかったのですが、今回の計画の特徴として、資料2にありますように『協創と貢献』という基本理念が示されました。この言葉に対し、「造語ではないか」とか「意味が分かりにくいのではないか」というご意見が出されています。「これではいけないのか」や「違う言葉が良い」、あるいは、「このように補完する形なら、これでも良い」など、ご意見をいただければと思えますが、いかがでしょうか。

ご意見をまとめていただいている間に、少し私からお話しをさせていただきます。「協創」というのは造語だというご意見がありましたので、早速、インターネットを調べましたら、「協創」という言葉が5万8,000件程度出てきて、決してここでつくられた言葉ではない。また、マサチューセッツ工科大学の研究者として行かれている先生が、コラボレーションという言葉に「協創」という言葉に置きかえて使っていたらというのもありました。

それから、共に創るという言葉になぜ使わないのかという意見があったのですが、私は「共創」という言葉と「協創」はかなり意味が違うと思えます。「共創」というのは、運命共同体とか村社会的なイメージが多少あると思うのですが、「協創」は、イヴァン・イリイチが言うコンビビアリティ、つまりお互いに刺激し合って、一人では考えつかないようなことを、みんなで考えるというようなニュアンスを、私は「協創」という言葉から感じるのです。

それから、「貢献」ということですが、「貢献」については、今までの元気いばらき戦略プランは、地域が元気でいこうという表現はあるのだけれども、その先に、私たちが元気で生きていく目的や意味は何かというのを考えた時に、社会に貢献することではないかということが出てくる。大学も研究と教育の二大機能に加えて、社会貢献や地域貢献が求められるようになりました。私は貢献という言葉を使うのに照れくささがあり、貢献という言葉は余り好きではないのですが。

それから、「貢献」の貢という字は、年貢の貢という字でもあるので、お上に年貢を出さなければいけないのではないかと感じるかもしれない、少し気が引けるかもしれません。英語で言う contribution ですが、社会に貢献するのだという意識は、今までの日本の社会ではわりと弱かった部分でもあると思えます。むしろ、この際、いばらきが社会に対してできることは何かということを考えながら、みんなで考えを出し合って新しいものを次々

と発想し合っていこうというニュアンスが感じ取れればよいと思います。

contribution を辞書で引くと、「貢献」と、もう一つ、「寄与」という言葉が出てきます。社会貢献は命令形にしても意味が通じるのですが、社会寄与は命令形では意味が通じにくい。「貢献」というのは義務的なニュアンスがあり、「寄与」というのは、主体的に何か自分が働きかけていくというニュアンスがあるように思います。「貢献」だけではなく、「寄与」という言葉もあり得ると思いました。

いろいろ言いましたが、この間に考えていただいたと思うので、何かご意見がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょう。

A委員さん、よろしくお願いします。

○A委員

基本理念でどういうことを書くかということですが、大体2種類のものが考えられると思うのです。つまり、「このように行動しましょう」ということの内容と、それから、そうやってどういうものを目指すかという具体的な像のようなものと。これらが行動のスタイルの方は、先にキーワードとして出て、姿は「目指す姿」という格好で説明で入っている。そのように原案はなっているのではないかと私は理解しました。

この順序でこのような出し方には基本的に賛成なのですが、一番目立つ『協創と貢献』については、意味は賛成なのですが、一般の人がパッとみてどう受け取るかを考えた時、「協創」というのは何を言っているのだろうという感じが少しするのではないだろうかという気がします。

それから、「貢献」というのは、主体的に何か寄与するという意味にとってもらえれば良いのですが、何かしなさいという要求としてとられるとまずいような気がします。しかし、結局、どのようなものが良いのか思いつかないままここに来ている感じです。

例えば、考える選択肢としては、標語的に漢語で置くというのを諦めて、それこそ「こういう行動をしましょう」というように説明文にするという手もあるのではないかと思います。

それから、目指す姿としては、基本的な内容としてはこれで良いのですが、3つの文章がもう少し簡潔に揃っているべきではないかと思います。そういう点で、文章としてはもう少し推敲の余地ありと感じています。

○部会長

ありがとうございました。

他にご意見いかがでしょうか。

B委員さん、お願いします。

○B委員

各懇談会等での意見の中に、県計画がよく分からないという意見が非常に多かった気がします。そういう意味で、基本理念の『協創と貢献』の中で、「貢献」というと、先ほど部会長さんもおっしゃいましたように、県が、皆さん何かをやりなさいというように取られ

なのです。説明をしていくとその内容はよく分かるけれども、わざわざ説明をしなければその内容が理解されないというのはいかがなものかと思います。私は、「貢献」という言葉に違和感がありましたので、これは誰がどのように貢献するのか、それをいちいち説明をした文章を見なければということではなく、言葉をつくるのであれば、もっと端的に、今、何が良いかというのは分からないのですが、そういうことを感じたところです。

○部会長

ありがとうございます。

C委員さん。

○C委員

「協創」という言葉は大変結構な言葉ではないかと私は思います。これは各委員さんからのご意見で、協力して創造するのか、あるいは、創造を協力するのかということですが、とにかく、公的、私的に、日本の行政が縦割り社会であるというのは今日まで続いている現況がございますから、縦、横の連携、協調というのはこれから非常に大切になってくる。できたら、それも斜めの織り方をすることで、非常に強い布を織るという意味で、協力、創造という言葉は大変結構なことではないかと思うわけであります。それは協力して創造することも含めるし、協力して個々の創造力を高めるという意味合いも含めるので、私は「協創」という言葉はイメージとしてはよろしいのではないかと思います。

それから、「貢献」でございますが、これは茨城県の構想でございますから、対象は県民でもあります。それから、茨城県全体に対する貢献も含まれるし、それは、強いて言えば、関東甲信越静、あるいは日本全体に貢献するという姿勢を示しますので、非常に漠然とした熟語でございますが、これはよろしいのではないかと。「貢献」ということはあくまで県の姿勢として、県民それぞれにも、あるいは社会全体、日本全体に対しても貢献するという強い意志を表すということで、非常に分かりにくい言葉かもしれませんが、これは謳い上げてよろしいのではないかと。特に科学技術の中心は茨城にある。あるいは、ある部分の産業は日本トップであるということが、ともすれば東北地方の茨城県というイメージが首都圏でもあるわけでありますから、その辺を払拭させる意味でも、「貢献」という言葉は適切か不適切かということよりも、あえてこの言葉を挙げることで、私は賛成でございます。

○部会長

ありがとうございます。

D委員さん、お願いします。

○D委員

私、遅く出したものですから、特別に1枚別に刷っていただいています。基本理念のところは何を掲げるかということで、基本構想全体を読ませていただきました。次の3つの目標ごとの目指すべき将来像のところを書いたのですが、2035年を考えてこれから5年間を考えるとすると、これから人口の減少とか高齢化が進んで、それから、世界との競争もますます激しくなる。それから、県は財政的にも困難が増すということを考えると、いろい

ろな生活の環境の面で厳しくなる。あるいは、今必要なものをつくっておかなければ将来はできなくなるように、後の時代の備えをする5年間なのではないかと思うのです。ところが、ここに書いてあるようなことは、気持ちはよく分かりますが、ふわっとしていて、今の時期に何をすべきかをもう少しはっきり打ち出してもいいのではないかと。

先ほど、A委員のお話にもありましたが、精神を書くというのももちろんいいことだと思いますが、そのような時期に我々がいるということを示すためには、この5年間で何に向かった準備をするのかという言葉の基本理念の最初に置いたほうがいいのではないかと思います。

例えば、具体的な言葉で言うと、「誰もが住みたくなる次世代のいばらきを創る」、もっと具体的に言えば、「高齢化社会に備えて、安全・安心、元気ないばらきを創る」など、読んだらすぐ分かる、みんなが何をやってほしいかがすぐ分かる言葉を置くことも一つの方向なのではないかと思います。

○部会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

E委員さん、お願いします。

E委員

恐れ入ります、前回休みまして、資料をいただきましてから一生懸命読んで、本日、ここに来ております。

『協創と貢献』の言葉について、先ほどから多くの意見が出ておりますが、「協創」の協の字については、私はむしろ共に生きる「共生」の方が良いイメージがあると捉えているのです。先ほど、「共」の方は村社会的イメージがあるという意見がありましたが、むしろ私は、経済の低迷で、今、十分に就業体制に入っていない方々が中堅どころとなった時にどのような社会になるかというのを大切に受け止めなければならぬと思いますので、共に創り合うという意味で。協力し合うというのは、ある程度の位置に皆さんがいて、協力してくださいというイメージがあるのですが、「共生」の方は少し福祉的なイメージが入ってきてまして、どんなに豊かな人も貧しい人もそれなりの知恵を出し合ってやっていこうという理念が込められてくると思って、共に生きるの「共創」の方が良いと感じております。

それから、「貢献」にしても、先ほどいろいろなご意見が出ましたが、私も賛成です。かといって、では何か違う良い単語がないかということ、なかなか思い浮かばないで苦しんでおります。

それから、今、新党ブームで、「たちあがれ日本」とか、名詞や体言止めではなく、散文的なキャッチフレーズでやっている。そういう感覚を少しここにも取り入れるのもいいのではないかと感じておりますが、自分では具体的にこれが良いというのがなかなか出てきません。

○部会長

F 委員さん、お願いします。

○F 委員

私も基本理念の『協創と貢献』にこだわっているわけではないのですが、ここは四半世紀先を展望した理念ということなのです。私も、では何が良いのかといろいろあるのですが、先ほど、A 委員さんのご意見にもありましたが、ここに標語的なことをつくるとすれば、25 年先を展望してということでもっと分かりやすいほうが良い。そこに一つの標語をもって向かっていこうということですから、果たしてこのような標語が良いのかどうかという問題です。

それから、ここにもキャッチフレーズが出ていますが、D 委員さんのご意見にもありましたが、私も分かりやすい言葉の方が良いと思います。文字をつくるということもあるのですが、そのことが県民にとって非常に分かりやすいことであればそれでいいのだけれども、これは私の感覚がそうなのかもしれませんが、『協創と貢献』というのは、「貢献」は何となく分かるのだけれども、「協創」というのは、文字を見なかったら、誰かと喧嘩する、争うのか、そういう意味ではないと思うのですが、ここはそのように捉えたほうが良いと思います。要するに、標語で捉えるのではなく、そういうやり方があると思います。

基本理念の文字を見ると、これを標語にすればこのように文字になるのだろうなと思いました。

それから、もう一つは、今、E 委員さんのご意見にもありました、私も「共」という字を当てた方が良いと思います。

いずれにしても、25 年先の標語をここで決めるということになるわけですから、ここはもっと分かりやすいメッセージの方が良いのではないかと思います。

○部会長

ありがとうございます。

G 委員さん。

○G 委員

私も案に既書いてあるので重複になると思いますが、『協創と貢献』は男の人たちがつくった標語という感覚があります。なぜならば、男女共同参画の協働の時も、「協」か「共」かということがある一部で議論があったはずなのですが、家事や育児は協力しようと男の人が言うのだけれども、女の方は、協力ではなく、共にやろうというメッセージだったと思います。これから 25 年先を見越した時にどういうことになるかということもありますが、そういう意味で「共」という字か「協」かというのは過去に男女共同参画で議論した記憶があったと思います。

まして「貢献」は、男の人たちや経済力のある人たちの言葉だと思います。年金にしてもきちんと納めて貢献をしたのに返ってこないという見返りを考えてしまうことも含めれば、もう少し主体的というか、誰もが自分が自分らしく前を見つめられるような言葉とい

う意味で、資料の2ページ目に書いておりますが、貢献するということは、誰かに突き動かされると。平和貢献ということもありますが、そういう感覚を生みやすいので、もう少しやさしくという感覚はあります。

○部会長

ありがとうございました。

H委員さん、どうぞ。

○H委員

将来像のところとも絡んでくるのですが、前回、3つの目標がある中で、少しこれを構造化した方が良いのではないかという話が出ていたと思うのです。資料2の中では、人が輝くいばらきの部分が基盤的な目標であるということで下に置かれていて、これが基盤、その上に住みよいいばらきと活力あるいばらきが出てくるという構えになっています。

それがあるとすると、その頭に来る基本理念の部分は、人が輝くいばらきのところに自然につながっていく形にしていなくてここが切れてしまうのです。その切れているという感じをすごく受けて、私は『協創と貢献』という考え方自体には賛成しているのですが、言葉とか定義の仕方については、もう少し柔らかく、分かりやすくしないといけないという気がしています。

特に、「協創」は、多分、これは一緒に創るという意味が含まれているのだと思うのですが、さらに一緒に創って育てるという意味合いを込めた言葉にしたいと思っています。

それから、「貢献」については、先ほど、「貢献」という言葉は非常に柔軟だということ、私はこのことについて確かにそう思います。しかし、今の世界的状況、日本的状況を見てみると、何か絶対的に信じられる価値があった時に、その価値の実現に向けて自分は何ができるかが貢献だと思うのですが、世界的なベースで、あるいは日本というベースの中で価値がぼろぼろ壊れていて、今、何を価値として信じて、その実現に向けば良いのかがまさに模索されているところです。

ですから、こういう時に「貢献」と言われてしまうと、何に貢献するのか、何を信じるのか、何が価値なのかということについて、大きな戸惑いが出てくる気がするのです。ですから、その部分は、いばらきモデルという言葉が使われているのですが、茨城から何か新しい価値、新しい技術、新しい考え方を発信していくのであるということの基本構想の中で言うはずなので、むしろ「貢献」ということではなく、我々は創っていくというものが含まれている言葉がこの部分に入ってくれば良いと感じています。

今、この言葉が良いだろうとすぐ提案できないのですが、そのように考えているところです。

○部会長

では、C委員さん。

○C委員

追加発言いたしますが、資料2をもう一度ご覧いただきたいと思います。

資料2の基本理念の『協創と貢献』ということで括弧でくくって、その下に、「心豊かで質の高い生活と社会を協力して共に創り、・・・」ということで、きょう(協・共)という字がここで2つ使われているわけです。先ほどからの議論では、協力よりも共にという方が良いという議論もあるし、協力して創造するということは結構でしょうという意味合いで言っているわけでありますから、これは単に漢字の問題ということになる。理念としては、協力して共に創りということ「協創」という言葉、あるいは、ベターな言葉であれば、それを考えるということでございます。

それから、「貢献」であります。今度は目指す姿の3つ目の白丸に、「これからの時代を切り開く独自のモデルを創造し日本と世界に貢献する県」とはっきり具体的な言葉として書いてあるわけです。ですから、改めて、貢献は県民のためなのか、あるいは県のためなのか、また、日本なのか世界なのかという議論よりも、ここで具体的なことが表されているわけでありますから、こういうことが示されている以上は「貢献」でよろしいのではないかと私は思います。

○部会長

I 委員さん。

○I 委員

「協創」という言葉は、確かに分かりにくいかもしれませんが、先ほどからのご意見にありますように、連携の時代です。また、部会長さんからご説明があったコラボレーションという意味が含まれているということをお考えすると、大変面白い言葉だと思います。そうすると、下のリード文が、「協創」とは何か、なるほど、これなのかというのがすぐに分かるようになるというわけですね。ですから、「心豊かで質の高い生活と社会を協力して共に創り、・・・」というのはいかに長くて、かかり受けが少しもたつくとおもうのです。この「生活」の言葉を取ってはどうか。「心豊かで質の高い社会を協力して共に創り、・・・」とするとすっきりすると思います。

○部会長

分かりました。

J 委員さん。

○J 委員

私も今のご意見とほぼ同じでございます。部会長さんが最初に言われておりましたが、コラボレーションということをおかれて、何となく理解できたということがございます。

○副部会長

部会長会議などにおいて、こここのところをどうするか大分揉みました。そして、未来に希望が持てるということが大事である。それから、もう一つは、財政が厳しい折、県民全体がこれに参画して茨城を良いものにしていくということが大事である。そこから生まれたのが『協創と貢献』という言葉だろうと思います。

MITのコラボレーションはこの漢字の「協創」でよろしいのですか。ぜひこれでいけ

たらと思っております。

○部会長

いろいろご意見をいただいて、これをまとめるのは大変難しいですね。私は「共に」という言葉がひっかかります。なぜかという、脱イデオロギーの時代とも言われる今、これが正しいとか、これが社会だと決めつけるよりも、みんなそれぞれ価値観を持ち、それぞれ事情も違えば条件も違うという中で、一つの社会の中で生き合っているという社会環境を創ることが大切だと思うのです。一つの大きいパラダイムがしっかりあって、そこにみんなが信じてついていけばきちんといい生活ができるという時代ではなくなっていると思います。「協」というのは、一人一人が持っているささやかだけれども価値のある創造力や、価値観は違うけどみんなと一緒にやっ払いこう、という部分を広く取り上げて、みんな一つ一つの社会、プラットフォームを共に調和的に維持していこうというニュアンスがあると思ったのです。

ただ、いくらそのように私が思っている、ほとんどの皆さんがお分かりにならないければ意味がないので、分かりやすくしないといけない。結果的にいろいろな誤解を生んではいけないので、まず分かりやすくしていかなければいけないと思います。

それから、もう一つ、基本理念は今まで無かったのですね。茨城県に理念がなかったということです。今、何となく少しこんな感じでおさまりそうかなというところに向かいつつあるということは、理念の芽吹きとでもいうのですか、理念的なものが生まれかけているのだと思います。最初から素晴らしい理念ができるとは思えないのだけれども、まずはこのタイミングで理念をぜひつくっていきたいと思うのです。

それから、これからの5年間、あるいは2035年を考えると、これでいいのかというご意見もあったのですが、私は、理念というのは時代によって大きく変化するものではなく、非常に基本的な部分だと思います。3つの目標、あるいは基本戦略のところ時代性が色濃く出ていけばいいと思うので、理念は、私たちが住む社会の基本、特にその中で茨城が大事にしなければいけないことというところでおさまるのが良いと思います。

分かりにくいというのは、恐らく、キーワードが大きい字で2つ並んでいることかもしれません。もしこれが分かりにくいということであれば、この下の副題というのですか、「心豊かで質の高い生活と社会を協力して共に創り、日本をリードするいばらきを実現する」という部分と目指す姿のところ本日の皆さんのご議論を生かした形にしていくという手は一つあるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。何が言いたいかというところ、『協創と貢献』というのは少し小さくするか消す方向でもいいかもしれません。

○OK委員

私も皆さんのお話をお伺いしながら自分でうまい言葉がなかなか見つからず、どう発言しようかと思っていたのですが、まず、県民の皆さんに見てもらいたい総合計画という視点から考えて、私たちの世代では、普通、「貢献」と言われると、貢献しなさいと言われてるように聞こえるということを感じたのです。心豊かで質の高い社会を協力して共に創ると

いうことは良く分かるのですが、日本をリードするいばらきを実現するということは非常に良いことだと思うのですが、例えば、日本と世界に貢献する県というくだりは、県の方向性、基本理念としては分かるのですが、県民に対して、生活大県を謳っているのであれば、生活によった住みよいか、そういったところを基本理念に持っていった方が良いのではないかと考えました。

5年後を考えた時に、今の日本やアジアの経済状況を見ても、5年後も世界に貢献するいばらきを目指すのだというよりは、まずは自分の住んでいる茨城をどのように強く生きていくかを示していく方向の方が良いのではないかと私は感じました。

〇〇委員

先ほども意見がございましたが、ただ今の意見もそうですね。今直面していることに対してすぐ直結できるような姿勢を示すということも必要ですが、基本構想では、四半世紀後、2035年を展望したと長期でこの基本構想をつくと明記しているわけです。昔は10年一昔ですが、25年先という非常に長い期間でみた場合には、このような標語でもよろしいかと思うわけでありませう。

私、二日後に県医師会の会長になりますが、医師会が直面している問題と茨城県が直面している医療、看護、介護、福祉の問題を取り上げますと、茨城県は日本最低の県になるわけです。医師数、看護師数は対人口10万人当たり47都道府県中最下位であります。にもかかわらず質は上位にランクされている。これはほとんどボランティア的、犠牲的な組織の力で貢献しているわけでありませう。これは自分の田んぼに水を引くような言い方になるかもしれませう。

では、日本全体とか社会全体の問題として、医師数や看護師数が足りないならば増やせばいいではないかという論争がありまして増やそうとした。けれども、今大学に入学した人間が、医師や看護師、歯科医師など、いろいろな分野に巣立つためには、医師で言うならば10数年後にしか使い物にならない。そうすると、四半世紀後ぐらいの長期での計画になるわけでありませう。今直面している医師、看護師、技師、対人口10万人当たり最低の絶対数が足りない茨城県において、では明日からどうするのか、来年どうするのかという問題はここには出てこない。

しかし、目標実現に向けて今後5年間に推進すべき基本的な取組ということで出てくるわけですから、そうすると今度は短期での問題になってくる。ですから、非常に長い期間を含めて、目下困っている問題も取り組まなければならない。農業問題だってそうでしょうし、水産関係もそうでしょう。教育のことを言うならば、ゆとり教育のゆがみが今大きく出てきているけれども、教育制度そのもの、それから、茨城県の教育そのもの、学校の状態を変えたといっても、その効果が出てくるのは、先ほど申し上げましたように、10年後、20年後にその教育の成果が出てくる問題ではなかろうかと思ひませう。

しかし、今直面している問題はすぐ取り組まなければならないということだと、両方を満足して、しかも中期的な問題も起こるわけでありませうから、その期間から考えると、余

り基本理念の標語はこだわらなくてもいいのではないかと、私は今の議論を聞いておりまして感じました。このまま『協創と貢献』ということで、一応、大前提の基本構想は 25 年後、それから、短期での問題は、明日からの問題も含めて、目標実現に向けた取組で論議すれば良いという感じがいたしました。

○部会長

では、F 委員さん。

○F 委員

特にはありませんが、こればかり長くやっていると時間がなくなりますので、標語をつくる必要があるのかどうかということだけ聞きたかったのです。標語をつくる必要があるのかだけを整理してもらえれば、私は皆さんの意見もそのとおりでと思っていますから、何を当てるかは別にしまして、そのことだけ確認させていただきます。

○部会長

A 委員さん、お願いします。

○A 委員

標語の『協創と貢献』とその下の目指す姿全体でぜひ言いたいのは、もう少し若い人を育てるといふ雰囲気のものが入っている必要があるのではないかということです。例えば、目指す姿の中の 2 番目ぐらいに「未来を担う人が育ち」と入れたらどうかと思います。

それから、『協創と貢献』ですが、字を小さくしたり誤解のないようにという形であればこれでも良いと思うのですが、こういう標語が良いのか、説明文的な行動を書くのが良いのか、私はどちらでも良い感じがしているのですが。

○部会長

ありがとうございます。

いろいろな意見が出てきて、もう既に 2 時を回ってしまって、皆さんの熱心なご意見が出てきて良かったと思います。

どうするかということですが、くどいようですが、ここに理念は書きたいということがあります。それについてはいかがですか。まず理念は書くということによろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○部会長

それから、もう一つは、この標語がどうかということですが、ここで決を取ったりするわけにいきません。目指す姿のところもじっくり吟味して、その上で、結果として『協創と貢献』にまとめようということになれば良いのですが。『協創と貢献』という言葉は賛否さまざまでしたので、これを大事にするということを前提に、この下の副題及び目指す姿あたりを吟味していきたい。同じ理念の中に、2 つの異なる「とも」の字が混在しているとか、まだまだ未完成な部分があるので事務局に検討していただくということはいかがでしょう。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○部会長

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

ここで『協創と貢献』、目指す姿は大体ご意見をいただいたので、これはもう一度吟味していただくことにしまして、次に、3つの目標と目指すべき将来像についてご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

今回、人が輝くいばらきが一つの基礎になり、その上に住みよいいばらきと活力あるいばらきという建屋が建っているという構造になっていて、今までの3つの目標が横並びになっているのに対して、人が何よりも大事という思いがこの図の中に入っていると思います。それについてご意見をお聞きしたいのと、細かい文言については皆さんからさまざまなご指摘がありました。特にこの文言がという部分についてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○副部会長

文言ということで、まず、住みよいいばらきづくりのところ、丸の4つ目の「・・・快適に暮らせる県」の「快適」という言葉をここで使って良いかどうか。また、活力あるいばらきでの「豊かな暮らし」では、20世紀型の物や量を追及するイメージを抱かせてしまうのではないかと。基本理念には、「質の高い」という言葉を使っているのですが、少し表現を検討していただきたいと思っています。

○J委員

ここで発言して良いのかどうか分かりませんが、目標値を定めて、目標はこのぐらいで、現実は何のぐらいでいくかということを組み込んでいただけたらよろしいかと思うのです。文言については、住みよいいばらき、活力あるいばらき、人が輝くいばらきというのはとてもまとめて分かりやすいと思うのですが、それぞれの目標値を定めて、それに対してどのくらい成果が出ていくか、そういうものを将来像として挙げてもらえたら良いと思います。

○部会長

それについては、3つの目標と目指すべき将来像を定め、それに基づいた基本戦略を立てておきまして、さらにそれをブレイクダウンした形で具体的な施策が並べられています。それぞれの戦略について定性的に評価をし、進捗状況を図ることになっているので、ここでは特になくて良いと思いますが、そのようなことで事務局よろしいですか。

○D委員

先ほどの「快適」と「質の高い」の文言ですが、私も「質の高い」の方に賛成したいと思います。

質の高い生活という時に、一つではないということだと思ふのです。東京圏に近い地域における質の高い生活と、県北における生活の中で質の高さや生活の豊かさを感じるというのは違うと思ふます。

地域によって違いがあるのだけれども、それぞれの中でみんなが新しい豊かさとか満足

感、みんなでお互いに支え合うという生活実感を持つような生活圏をつくる、それを示すことで他の地域や世界にも貢献していくなど、質の高いというのはいろいろな意味を含んでいて、しかも、他の地域に対する価値も含んでいる言葉ではないかと思います。

○I委員

人が輝くいばらきづくりですが、これはゼロ歳から80歳までの人たちを指しているのだとすると、幼児から老人まで、生涯学習の基本がこの中に含まれているということが大事になってくると思います。目的意識を持つ、個性や能力を伸ばす、健康、豊かな生活、社会で活躍する、地域づくりの主役となるという文言に生涯学習の基本がすべて入っていますので、私はこれで十分ではないかと思います。

○部会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょう。

E委員さん。

○E委員

人が輝くいばらきが2つを支えるとのこと説明がありまして、私もそれを嬉しく感じております。

また、文章の中に、それぞれ個性や能力を伸ばす、活用してという言葉が入っていますが、男女共同参画が進めております「互いを活かし合う」という言葉を盛り込んでいただきたいと思います。例えば、最初の行に「誰もが目的意識を持って個性や能力を伸ばし、互いを活かし合うことのできる県」のように入れていただけたら、個々人がただ前向きに頑張っているだけではなく、お互いが、その状況に応じて活かし合っていくというのが加味されていて、そのようにしていただけたら嬉しく思います。

○部会長

ありがとうございます。

A委員さん。

○A委員

この内容で私は賛成なのですが、今の意見のように、長い文章をここに掲げるのが適当かどうかという点でかなり疑問です。それぞれもっと短くするべきなのではないか。この段階で、一番何を言いたいのかを書くようにした方が良いと思うのですが、全体として文章が長すぎるように感じています。

○部会長

ありがとうございます。

A委員さんからは短い文章でというご提案がありました。2ページ目の真ん中あたりですが、「お互いに人のやさしさを感じ、安心して住むことができる県」のように1行で言えるような文章でということですね。

A委員

はい、そうです。

○部会長

では、この3つの目標は前回も掲げられていたということで、かなり練られているので、大筋、これはどうかというご意見はないと思うのですが、細かい文言のところ、川上副部会長さんがおっしゃられたように、20世紀型の価値観のようなものがまだ残っているのではないかということです。物質的な豊かさや拡大指向など、そういう部分でみんなが貢献していた時代からは、もう少し実質的な、自分らしさ、生きがいや働きがいなど、質そのものを目指し合うという社会のあり様というか、そういったものがきちんと反映されていないといけないというご指摘だったと思うのですが、それに加えて、A委員さんからは、でも長くははいけないというご意見がありまして、その辺のところを端的に表現できるような部分で少しブラッシュアップするということにしていきたいと思いますが、それよろしいでしょうか。

[委員、うなづく]

○部会長

ありがとうございます。

それでは、次に資料3の基本戦略の部分ですが、これについてはいかがでしょう。人が輝くいばらきがあって、それが一つの基礎になると私は申し上げたのですが、A委員さんからは、そのわりには柱が3本しかなくて少し弱いのではないかというニュアンスのご指摘もあったと思うのですが、いかがでしょうか。この辺りになりますと具体的な施策レベルの話になってくるわけですが。

D委員

目標を上に掲げて、その下にそれを達成するための戦略を並べるとこういう形になると思うのですが、一つ一つの戦略が結構独立的で余り相互に関係がない。今までもこういう形でやってきたのだと思うのですが、それで必ずしも県全体が非常に大きくレベルアップしていくというふうにはなっていない面もある。どうやっていいか良く分からないのですが、相互に関連するものは大いにあるので、この戦略をやる時にはこちらもやらなければいけないということがあるのではないかと思うのです。先ほどの説明では、横断型のものについては下にプロジェクトという形で個々のプロジェクトとして挙げたということなのですが、戦略を横につなぐことは何か考えられないと思います。事務局、あるいは全体の会議の中でそういう方向でアイデアや意見があったのであればご意見をお聞きしたいと思いません。

○部会長

事務局、いかがですか。

参事兼企画課長

ご指摘の点、まさにそのとおりだと思います。それぞれの戦略を掲げていても、これが

他の分野のところに、位置の関係はありますが、いろいろなところに関係しているものもございます。いばらきモデル推進プロジェクトを横軸につなぐ連携戦略という形で想定はしていたのですが、施策レベルでよりプロジェクトという形で落とし込んだ形にしてありますので、いずれにしても、戦略のところを横につなぐというのはまさにそのとおりですので、何らかの工夫を検討していきたいと思います。

○部会長

D委員さんのご指摘に対して、ニュアンスとしては、今までの論議の中では、施策というのは基本的に縦割りですと進められてきた歴史があるわけです。しかし、縦割りで進めて精度を上げていっても、縦糸だけで織っている布のようなもので、布のような強度が出てこないのではないかと。横、斜めというように布を織り込んでいくことが必要ではないかということが論議の中であって、いばらきモデル推進プロジェクトが出てきたのだと思います。

ですから、ある意味、今まで全部縦型で進めてきて、縦型で達成状況も評価してきたところから、今回、横糸も初めて頭出しして、何かやっつけていこうという新しい動きだと思うのです。ですから、そこについては、いばらきモデル推進プロジェクトをいばらきモデル推進戦略と呼ぶかどうかということはあるのですが、基本的には同じような意味として捉えられます。そういうところで横断的に連携しなければならないものをここで取り上げて、今回の県の5カ年総合計画から、横型のこともやっつけていこうではないかということになっていると思うのです。なにせ初めてなので、まだ精度がよくないけれど、まずは始めてみようということだと思います。

D委員

ご趣旨はよく分かります。少し気になるのは、例えば、住みよいいばらきを見ますと、括弧の中ですが、生活環境や交通、環境や地球温暖化といった課題、これは県の部・局につながっているものである一方、人にやさしいまちづくりというのは部に属しているのではなく課題だと思うのです。その課題を解決するためには、生活環境部も必要だし、医療も必要だし、交通もということになっていると思います。この戦略をある部が担当するというのではなくて、いくつかの部にまたがって、この問題を本当に解決するために一緒に働くという仕組みを入れることがぜひ必要だと思います。

それの上に、今おっしゃったプロジェクトレベルの横串が通れば、基本的な構造として縦、横になっているし、全体が取り組むプロジェクトもはっきりしてくるというので、施策の展開としては非常に強い、魅力的な構造になるように思います。

○参事兼企画課長

今ご指摘いただいたように、いばらきモデル推進プロジェクトは、横のプロジェクトとして当然考えてまいりたいと思いますが、基本戦略につきまして、従来は担当部ごとの基本計画レベルで整理しておりましたが、今回は、横に連携しているという工夫が何かできないかということを検討してみたいと思います。

○C委員

私もD委員と同じような意見なのですが、それは絶対に必要なことだと思います。具体的な例を申し上げますと、学校保健というのは、国のレベルで言うと文部科学省と厚生労働省で全く縦割りでありますが、今回の新型インフルエンザの問題についても、それぞれ歯車がかみ合わないということで、一番最初に神戸市とか兵庫県が大トラブルを起こす。最初の女子高校生の感染者が出たときに全く対応ができないような、ずっと混乱が続きました。茨城県の場合には余り大きな混乱はありませんでしたが、今、横の連携が必要だということで、学校の場合は、学校保健が2つの部署で縦割りで、両方の協調性が必要です。

同様なことは、住みよいいばらきの医療・保健・介護・福祉、生活環境、人が輝くいばらきの教育の部分は、先ほどの兵庫県の問題であります。それこそ協調しない限りこれは強力で推進できない部分があると思うわけでありまして。

D委員の提案は、今まさにそれで苦勞している部分があると思いますので、5年間のプロジェクトではぜひとも県で検討していただければ助かる具体的なものが多数あると存じます。よろしく願いいたします。

○部会長

C委員さんにお聞きしたいと思いますが、概念図では、人が輝くいばらきというのが土台というか、基礎であるということで、大きく下のほうにあります。その上に住みよいいばらきと活力あるいばらきが立っているということなのですが、それが基本戦略(案)の中でも、教育の部分が主要なものとしてあるというふうに強調されているような形になっていたほうが良いということですか。

○C委員

左様でございます。例えば、いばらき型ライフスタイルというのは、この部分ですと交流促進とかイメージアップを図るためのプロジェクトとなっておりますが、いばらき型のライフスタイルというのは、青少年の保健、健康管理、教育の部分、これは住みよいいばらきにも人が輝くいばらきにも同時進行で協調しないと効果が上がらないという意味合いのことを申し上げましたので、いばらき方式のような教育方針を取り入れていただければよろしいと常々我々は考えております。

○部会長

分かりました。

○A委員

基本戦略の図式の立て方そのものから直す必要があるのではないかという気がします。「住みよいいばらき」などの部門ごとにこのようにつくっていくと縦割りの雰囲気になってしまうので、もう少し目標めいたものを置いて、縦割りの雰囲気を消さないと、先程から言われている雰囲気はつくれないと思うのです。ですから、図式そのものからもう少し考え直さないと先程の雰囲気は出ないのではないのでしょうか。

○部会長

もう少し具体的に、図式というのは。

○A委員

例えば、部門ごとの型をあっさりやめてしまう。そして、下の課題を書いていき、それがどういう部門と関係しているかという関連のつながりの矢印などを置いてはどうでしょうか。それとも、いっそのこと、下に行っているようなことをプロジェクトまで具体的にしない形で基本戦略のところに出してしまうとか、そういうことがいいのではないかと思ったのですが。

○部会長

それについては、基本的にピラミッド型の構造があって、細かい基本施策の上にはばらきモデル推進プロジェクトがあり、その上に基本戦略や3つの目標があって、そして理念があるという形のピラミッドになっていて、理念がブレイクダウンされて一つ一つの細かい施策になっていくという構造そのものですね。

○A委員

そう思います。

○部会長

そこをもう少し。

○A委員

いかにも図の書き方が部門ごとに分かれていて、そこで閉じた目標だという書き方になっています。これをやめない限り何をやってもだめなのではないかという気がするのです。ですから、いろいろな部門に関わるものの基本的な戦略があるのだということを主張したかったら、書き方そのものを変えるしかないという気がするのです。どういう書き方かというのは、先ほど私が言ったもの、あるいは関係を示すというもの、一つ一つの内容をどこかの部門のものにしない。

○C委員

技術的に難しいのではないですか。

○部会長

副部会長に応援を。

副部会長

3つの部門で進めていくというのは、確認された事項ですので、このままでお願いします。この部分は、いはらきモデル推進プロジェクトを上に乗ってきたほうが良いのでは。いわゆる重点戦略的なものを先に打ち出して、その次に住みよいいばらき、人が輝くいばらき、活力あるいばらきがきて、それぞれ取り組むというほうが良いと思います。今まで、糸のままにしないで、布を織ろうというのは随分話し合ってきたところなのです。そのためにモデル推進プロジェクトという部分が出てきています。

○I委員

今は本当に縦割りを徹底的に排除しないといけない世の中になっていると思うのです。特に、先ほどからお話が出ているように、教育の分野でも横断的な連携が必要不可欠であるわけです。ですから、縦割りをイメージするものは避けて、でも、機能の部分でそれは発揮されることで、図式がどうであっても、機能の部分で発揮されればいいのですが、ただ、この書き方では、確かに縦割りをすぐイメージしてしまうということで、なかなか抜け出していないという感じがいたします。

それから、人が輝くいばらきづくりの中で最も大事なのは幼児教育だと思うのです。学力向上、高等教育、キャリア教育という中身になると思うのですが、もっと茨城県は幼児教育を大事にしないといけないのではないかと考えております。保育所と幼稚園が小学校をつくっているのです。私は小学校の校長を初めてした時に本当にそう思いました。保育所と幼稚園が小学校をつくると言っても過言ではないと思いますので、幼児教育はどこかに入るような配慮をお願いしたいと思います。

○部会長

よく分かります。

では、H委員さん。

○H委員

資料3の書き方では、縦割りの形のイメージが出てしまうということですが、具体的に県の行政組織があるわけで、それを全部根底から取り払うのはなかなか難しいという気がします。先程のご意見のように、括弧書きの中身を見ていくと、この分野はこの部局で担当するということなのですが、こういう書き方をするだけではっきりと施策内容が表現できてくるということもまたあるのです。ですから、一挙にということではなくて、その書き方については、基本理念から始まる構造を私たちは考えているわけですから、その中で基本戦略までブレークダウンされてきたところで、その下にいばらきモデルが書いてあるということは、縦割りではいけない、横にしなければいけないという考え方が既に出てきているわけです。そのため、これを積極的に捉えて、これから取り上げていくいばらきモデル推進プロジェクトで補完する形で、それが例えば上にある基本戦略、それから、その下にブレークされているところのどこに関わっているのだということについてきちんと明記するような表現がとれば、今度は一つ一つのプロジェクトを吟味する中で、私たちが考えていた基本戦略とか基本理念に到達できていくだろうと思います。

○C委員

簡単に申し上げますと、我々が県の委員会に派遣しております委員は140ございます。我々の組織でさえ140の県の委員会や推進協議会に委員を送り込んでいるわけでありまして、農業、商業、工業、教育等、おびただしい委員会が県には存在するというので、それぞれが縦割りでございますから、先ほどの図式の面からいって、縦、横、布のような模式図がいいということではありますが、これは物理的に不可能だと思います。ですから、

このような大きな縦割りの中で横の連携がとれるようなシステムがとられていれば、このまま進行されてよろしいと思うわけであります。図式化しての縦割り、横割り、網目をつくるということは物理的に難しいのではないかと思います。縦割りを崩さなければいけません、図式化について申し上げますと、これは大変難しい作業ではなかろうかということでございます。

○部会長

一通りご意見を聞きたいと思います。

E委員さん、お願いします。

E委員

今、活字離れで、映像でイメージ的に捉えて考えるという方が多くなっていて、若い方々は特にそうだと思います。先ほど、若い方々にも納得いくような、アピールするようなというご意見があったと思うのですが、私もそうなのです。先ほどは時間がなくて言えなかったのですが、今、ニューヨークで漢字がアートとしてはやっていると聞いてはおりますが、『協創と貢献』というように画数の多い漢字と漢字で、茨城県の保守的なイメージをより強くするようなものとして捉えられてしまうと思います。

それから、いばらきモデル推進プロジェクトの書き方でイメージが出てくると思うのですが、縦割りのイメージを払拭するために、よくありますが、住みよいいばらき、人が輝くいばらき、活力あるいばらきをそれぞれ円に書いて、その3つの円を重ねると、2つ重なる部分、真ん中が3つ重なる部分という書き方があります。そこに3つの円の2つ重なる部分にどういうプロジェクトが入ってくるのか、3つの中はどういうプロジェクトが入ってくるのかという書き方をすると一目で分かりやすいという感じがしています。書き方や図表の示し方は、大変大事だと思っております。

○B委員

先ほどからのご意見にありますように、例えば、いばらきモデル推進プロジェクトのところで、地域コミュニティの再生というのは、それぞれのところで非常に関係してくるプロジェクトとなってくると思うのですが、この括弧があるから余計縦割りのイメージが強くなるのだと思うのです。いばらきモデル推進プロジェクトの中でどのように横、縦をうまく書いていくというか、みんなの中でそれぞれの事業を中に入れていくかということが非常に大事になってくるので、むしろいばらきモデル推進プロジェクトを上位に位置づけて、こういうことで横糸とやるように、そして、基本的な、細かい戦略的なものはこういうものというようなやり方もあると思いました。

○F委員

先ほどから話が出ているように、この種の話は事務局のほうでも考えるということですし、私は、資料1の1ページの2番目に、政策分野横断的な先進性の高い取り組みをいばらきモデル推進プロジェクトとして位置づけているということで、私はこれで良いと思っております。ただ、横串の問題は非常に大事で、一本の線を入れることも横串なのだと思

うのです。そういったことを考えると、副部長のご意見にもありましたが、いばらきモデル推進プロジェクトの中に、例示が出ていますが、このことは、場合によると、「住みよいいばらき」、あるいは「人が輝くいばらき」、「活力あるいばらき」にぶら下がることがあるのだと思うのです。そういう展開をされればいいのではないかと思います。

それから、もう一つ、私は活力あるいばらき部会のメンバーなのですが、1回目の時に、これは非常に難しいと思ったのは、その意見は、もしかしたら別な部会、住みよいいばらき、人が輝くいばらきのほうで議論される部分だと。このような枠組みで物事を整理してしまうと、ましてや、この種の部分は最も課題になる部分なのか。したがって、いばらきモデル推進プロジェクトの中身をもう少し決めて、場合によっては、例えば、活力あるいばらきの食料供給基地云々となったときには、そのモデルの中身は、逆に言えば住みよいいばらきの下にも同じようなプロジェクトがつながるような格好で出せばいいのかと。

資料1の2番目に書いてあるのはそのことを言っているのかと、私は、先ほどの説明でそのように思っていたのですが、下のほうは、そのときには、5年間の中の戦略を進める上でのモデルですから、例示は3つですが、ここは具体的なものとして検討する必要があるのかと。

それは先ほどJ委員さんのご意見のように、数値目標はこのところでいろいろなことが出てくることになると思っています。

参考までに、活力あるいばらきの目指すところですが、世界に目が向いている部分もかなりある。そのことは間違いではないと思うのですが、もう一つ、私は北関東、栃木、群馬、茨城と組んでやれるような、5年間の中ではそういうことがあるのではないかと思います。ましてや、道州制の問題も話としてあり得ることです。同じ立地、同じ地域の中で栃木と群馬と茨城、千葉もあるかもしれませんが、組むことによって茨城らしさが出せるものも結構あると思うのです。そうした視点もできればプロジェクトの中で出しながら、それで戦略を5年間の中の施策としてやっていくという格好で出してもらえれば非常に分かりやすいのではないかと思います。さらに、例示をもう少し増やして、このようなことも考える必要があるのではないかと。そうすれば横断的なものもあるのではないかという思いがしています。

それから、私は意見として書いておいたのですが、施策というのは事業環境など、その時代によって変わると思うのです。だから、今はこれでよくても、もしかしたら、来年、再来年になって環境が変わった時は、この施策は具体的に見直しをさせるというスタンスで全体を描ければいいのではないかと思います。

○部会長

ありがとうございました。

いろいろなお意見がありましたが、基本的には、具体的な施策に落として、そして、各部局が責任を持って5カ年できちんと実績を上げるというところへ持っていかなければいけないので、どこかでは必ず縦割りになるというのは間違いのないと思うのです。今日のご

意見としては、それは分かりきった話として進めてしまうと、それは恐らく3つの目標に沿った専門部会ごとにその部会がやればよい領域といったものが決まってしまう、それを細かく分けていってしまうというところに問題があると思うので、むしろぎりぎりまで分けないという形の、思いが伝わるような図にする必要があると皆さんのお話を聞いて感じておりました。

そういう意味では、概念図の資料2ですが、3つの目標と目指すべき将来像のところでも既に3つに分かれているのですが、これは分かれつつも、これがどこかでつながっているような、それから、資料3の基本戦略も、住みよいいばらき、人が輝くいいばらき、活力あるいいばらきが、これも分かれていながらも重なっている部分もあるという概念、それから、その下のほうで系統図のような線も、それぞれの4つなり3つのものが人が輝くいいばらきについているという形ですが、これも基本的にはそんなにはっきりとは分かれていないで、つながっているものかもしれないと思えるような図のかたちにまとめるということではいかがでしょうか。そんな小手先のことでよいのか、と言われてしまいそうなのですが。

D委員

図の書き方はいろいろあると思います。今議論しているようなことを本当に今後5年間で実施しようとする、融合的な分野を推進するための行政の母体が要すると思います。この委員会が解散した後は、県の中に、例えば、住みよいいばらき推進本部ができるのかどうかというようなことです。だから、行政の推進体制として、横断的にそういうものを作っていく体制をとるし、県民にもそういう形で参加していただきますということを、基本戦略進め方としてどこかに書いておく必要があります。そういうことが見えれば、なるほど、横断的に取り組もうとしていることが分かると思います。しかし、余り思いつきで言うと、県の行政組織を乱してはいけないので、ぜひテーマだけではなく、戦略の中に横断的な推進の体制をとりましょうということが書けるのであれば書いていただけたらと思います。

○部会長

審議会に答申するわけですから、遠慮することはないというか、そういうところはあると思うのです。

今日の皆さんの横断的というところが非常に大事だ、もう時代は変わっているのだからという思いをより強く総合計画の中に反映していくためにどう可視化してそれを見せるかというところが大事なことだと思うので、D委員さんのご意見を参考にして、検討を進めていただきたいと思います。

皆さんのご意見の中には、いばらきモデル推進プロジェクトについてかなりご意見をいただいておりますが、ここでさらにいばらきモデル推進プロジェクトについてご意見があったらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

○A委員

先程からこだわっているのですが、若い人を育てていくというのはどれなのかという感じがします。だから、ここはどういうものを置くかということについて、時間をかけて検討したほうが良いように思います。

○部会長

若い人を育てていくという。

○A委員

そういうものが入っていないような感じがするのです。

○部会長

いばらきモデル推進プロジェクトのところですね。

○A委員

そうです。だから、重要なものが落ちていないだろうかともう少し検討した方が良いでしょうに思います。何となく例示という雰囲気強い気がします。

○部会長

まさにそうだと思うのです。例示の状況だと思います。そのところは今までたたき台という形でやってきているので、この段階で各部門別に論議をして、ここを抜けないように整えていくということは不可能でしょうか。今日の資料の中で示されているいばらきモデル推進プロジェクト(案)はあくまでも例示的なものなのですが、この例示的な内容でこれから行われるそれぞれの専門部会でもんでいただいて、そして、いばらきモデル推進プロジェクトの抜けている部分を洗い出してもらって、それを反映させた形でより精度を上げていくという形でいかがでしょうかということなのですが、どうでしょうか。よろしいですか。

○A委員

はい。

○部会長

では、K委員さん。

○K委員

私も若い人がどこに入るのかというのは大変気になっていたのですが、そういったことを含めて、例示にあるいばらきイメージアップ、ブランド価値創造を実現するための具体的なプロジェクトと書いてあるのですが、これが具体的にどこに入るのかというのは、観光のところを思っても、それを見ると、世界と日本をつなぐ一大交流拠点づくり戦略と書いてあります。これがどこに当てはまるかというのは非常に見えにくいと思うのです。

そういった意味も含めて、A委員さんが出されている文章にも関わりますが、具体的に見通しをつけた上で、活力あるいばらきではこういったことを基本戦略として考えていこうというように、ある程度こういう戦略をとることを先に勘案していただいた上で、それに当てはまるように基本戦略をくみ上げていかないと、例えば、医療・保健・福祉・介

護などを当てはめて文章をつくって、そこらばらきモデル推進プロジェクトを出しても、それに当てはまらないようなところ文章がたくさん出てきてしまうと思うので、例示ではなく、各部分会に分かれるときに、もう少し具体的にお話をさせていただく中で、その後にも基本戦略を考えていただく方がイメージしやすいと思います。よろしくお願いいたします。

○部会長

むしろ、基本戦略のどこに当てはまるのか分からないような横断的なものが下に来ているということで、イメージアップが観光なのかどうなのかということではなくて、それが当てはまらないからここにあるというようにご理解をいただければと思います。

H委員さん、ご意見がおありのようですが。

○H委員

確認したいことがあるのですが、いばらきモデル推進プロジェクトについては例示があるのですが、これはまさしく現状は例示なのですが、出来上がる新しい総合計画の中においては、これがいくつかのモデルがきちんと出てくるということを考えてほしいのです。ですから、現状、これはまさしく例示なので、各部会でこのところは自分のところだろうというような視点からもんでいただいて、また総合部会で調整するという整理になるわけですか、手続き的には。

○部会長

いばらきモデル推進プロジェクトは3つの専門部会それぞれにつながっていくようなものになると思うのです。ですから、これは自分のところだということに囲い込むことではなくて、あれもこれも自分のところに関わることだという意識で理解していただければと思います。

○H委員

部会長のイメージとしては、今、例示が6つ挙げられていますが、それぞれの部会において、それ全てについて、うちの部会だったらこういうことをしていくような形で、これを少し補完していくという形ですね。

○部会長

そうですね。

○H委員

分かりました。

そうすると、今、これが足りない、あれが足りないという話というのは、当然、取り上げてくるわけですね。

○部会長

そうですね。先ほどA委員さんがおっしゃった若い人をどう育てていくのかということもあるし、I委員さんがおっしゃった幼児教育からというようなことも一体どこに入るのかということにつながってくるのだと思います。それが、幼稚園、保育園と小学校、中学、

高校で済むのならいいのだけれども、たとえば食育というのもあります。茨城県は食育を目玉にして、命の基本であるところからきっちり整えていく。それにより食料供給県としてもきちんと社会的に位置づけられ評価されていくように、社会貢献していきましょうというような形になってくると、それは単に農林水産部が考えればいいではないかとか、教育庁がやればいいではないかとか、商工労働部が考えればいいではないかということでは済まされず、かなり横断的になっていくはずですよ。そのようなイメージが私にはあるのですが、それでよろしいですか。

○A委員

確認の意味で。

この後、部会ごとに議論を深めるのだと思うのですが、もう一度確認したいことは、基本理念など部会に分けない段階のところから出発して、部会の枠を越えた議論をやって良いのですね。議論を縦割りの的にやらないということで部会の議論を始めていいのですねという確認です。

○部会長

今のはいばらきモデル推進プロジェクトの部分ということですね。

○A委員

いばらきモデル推進プロジェクトの項目自身が暫定的だということであれば。

○部会長

そうです。

○A委員

ですから、部会の中から、部会の枠を越えた提案もあり得るわけですね。

○部会長

あり得るわけです。

○A委員

部会の範囲を超えた雰囲気のプロポーザルが出てきても良いのですねということですよ。

○部会長

そうですね。私はそう思いますが、違うという方がいらっしゃったらお願いします。事務局、いいですか。

○事務局

はい。

○副部会長

基本的にはそうですね。

○部会長

いばらきモデル推進プロジェクトについては、6つあるのは例示であって、今後、専門部会の論議の中で、こういういばらきモデル推進プロジェクトを立てるべきというものが出てきたら、それはいばらきモデル推進プロジェクトとして十分論議した上で、それがま

た基本戦略のところの関わりにもつながっていくし、例えば、理念を変えるかもしれないよということがあってもいいということですね。

○A委員

はい。

○部会長

それはいいと私は思います。いいという理解で、よろしくをお願いします。

他によろしいでしょうか。

ようやくいばらきモデル推進プロジェクトまでやってまいりまして、ここまでよろしいですね。

それでは、議事(4)「人口・経済の見通し」につきまして、事務局から説明をしていただきます。

事務局

企画課の服部でございます。

時間も押しておりますので、簡潔にご説明させていただきます。

資料5でございます。

「人口・経済の見通しについて」という資料でございますが、今回、今の計画でどのような見通しがなされており、そして、現実がどう動いていくのか、そこをご紹介した資料でございます。

あわせて、今後、新しい計画においてどのように考えていくか、これから作業を進めていくわけですが、その時のポイントについて若干ですが記載してございます。

かいつまんでご説明いたします。

1ページですが、ここは、ご承知のとおり、現在の計画の見通しについて書いております。2015年ごろまでは295万人から300万人程度、2030年ごろには270万人から285万人程度になるという推計でございます。

現実はどうかということですが、2ページをお開き願います。

直近の平成21年、2009年の数字ですが、真ん中にグラフがございます。グラフの一番右側の棒グラフですが、296万7,000人ということで、現在のところ、計画で言いますと、下のほうの推計ですが、概ねそこに沿った形で動いております。

今後でございますが、5ページをお開き願いたいと思います。

5ページの下のほうに、(2)として、本県の人口見通しを考える上での視点がございまして、今後、本県の人口を見通す上で出生率がどうなっていくのか、それから、社会増減がどうなっていくのか、ここをどう見通すのかがポイントになります。

ご承知のとおり、合計特殊出生率は、平成20年、1.37、全国も本県もほぼ同じでございますが、ここ一、二年、少し上がり気味でございます。この動きが今後どうなっていくのか、この辺をよく検討していく必要があるかと思っております。

今回、これまでもご議論をいただいているとおり、新しい県計画では、県民の未来への

希望を持てる明るいビジョンを目指すことが必要だとか、あるいは子育て環境の整った住みよいいばらきをつくっていくというような目標、そのような議論がなされておりますが、このようなことを踏まえて、ある程度未婚化や晩婚化に歯止めがかかって、あるいは子ども数も少しずつ理想とする数に近づいていくことも可能性としてはあろうと思います。ですから、ある程度現状維持のままの係数、それから、ある程度期待を込めた係数をあわせて示していく必要があるかと事務局では考えております。

また、社会増減につきましては、6ページに資料が出ておりますが、つくばエクスプレスを開業した以降の数字ですが、つくば市や守谷市、あるいはつくばみらい市は人口が増えています。このような動きが今後どうなっていくのか。国が行っている推計値よりは、茨城県の社会増減についてはプラスとなっておりますので、このような部分も評価していく必要があるのではないかと考えております。

いずれにしても、こうしたことを参考に人口見通し作業を進めていきたいと考えております。

続きまして、7ページをお開き願います。

次に経済の見通しでございます。

1の現計画における経済見通しと実績ですが、表の上のほうにございますとおり、県内総生産(実質)ですが、計画では、平成17年度から平成27年度の間、年平均で1.9%の成長を見込んでおります。

実際はどうだったかということですが、次の8ページをご覧くださいと思います。

8ページの上のほうですが、県内総生産(実質)の推移ということで、一番右側、平成17年度から平成19年度までの平均の成長率ですが、3.9%ということで、比較的高い数字になっております。平成19年度は、日立建機とかコマツなどが進出して稼働を開始したなどの効果も含まれているようですが、いずれにしても、比較的高い数字がありました。

しかしながら、リーマンショックによる世界同時不況の影響で、一番下にございますとおり、直近のQEベースの速報ですが、軒並みマイナスになっているということで、計画期間中、平成22年度までに1.9%を達成するかどうか、微妙なところだと考えております。

以上が計画と現状の話ですが、9ページをご覧ください。

ここには今後の経済見通しの参考なのですが、(1)の2つ目の丸に新成長戦略が書いてあります。これは、昨年12月に国が閣議決定した新成長戦略でございます。今後、成長戦略を練っていくということですが、国としては、名目で3%、実質で2%の成長率を達成していくという目標を掲げております。

今後、6月を目途に、より詳細なアクションプランというか、実行計画的なものを取りまとめる予定だと聞いております。

このようなことを踏まえまして、最後の10ページですが、本県の計画においてどのような成長戦略を練るかということですが、その際に考えておくべきことは、ここに4つほどポイントとして書いておりましたが、少子高齢化、人口減少というものを経済成長を図る

上でどう考えていくか。人口が減っていくわけなので、労働力人口も減っていくのはある程度やむを得ない。そういう中で、女性や高齢者など意欲のある方々の就業ニーズを高め、あるいは、産業そのもの、社会そのものの生産性を高めていくというポイント、そこを予測にも反映させていく必要があると考えております。

さらには、②として、グローバル化、アジアとの関係、こういったものをより経済見通しにおいて考えていく必要があると思います。特にアジアからの観光客の増加、あるいは貿易の促進といった部分が茨城にとってどう反映されるのか工夫をしていきたいと考えております。

③としては、環境・エネルギー、イノベーションということで、本県の最大の武器である科学技術の集積を産業の生産性向上などに反映させていく必要があると思います。その辺を経済モデルの中に入れて込んでいきたいと考えております。

最後に、④として、陸・海・空の広域交通ネットワークの積極的な活用ということで、先ほどのグローバル化に関わりますが、空港ができ、さらには高速道路もほぼできつつあります。こうしたことで、例えば、今回、神戸便ができましたが、神戸、あるいは関西という経済圏が非常に近くなったわけです。こうした効果をどう本県の成長につなげていくかといった視点も必要だと思えます。

それから、ネットワークの整備による経済の成長も例示的に示せればと考えております。

以上、これからこうしたことをポイントとして作業を進めまして、夏以降に具体的な数字をお出しできればと考えております。

以上でございます。

○部会長

ありがとうございました。

今の人口・経済の見通しについて、質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思えます。これは特に活力あるいばらきのところに関わる部分だと思うのですが、よろしいでしょうか。

D委員さん、どうぞ。

○D委員

最後の10ページの視点のところですが、②でグローバル化のことが述べられているのですが、先ほど、F委員さんから、北関東、近県との連携、それから、人口の社会的移入の増加というのは明らかにTXとか県南の地域です。そうすると、首都圏の持っている膨大な力とどのように関係をとるのか、そういう視点はどこに入れるのか。逆に言うと、②の一足飛びにグローバルではなくて、国内の首都圏、あるいは北関東圏とどういう関係を結ぶのかというのが戦略的には非常に重要な視点なのではないかと思えます。

○部会長

ご質問という感じでしたから、服部さん、いかがでしょう。

事務局

そのとおりでございますが、D委員さんのご意見については、この4つのポイントの中で④の広域交通ネットワークの積極的な活用であると思っております。北関東自動車道の開通、あるいはTX等、アクセスの向上、そういったものを推計に取り込んでいきたいと思っております。

○部会長

D委員さん、よろしいですか。

○D委員

はい。

○部会長

一応取り入れてやるということで。

A委員さん、お願いします。

○A委員

ここで聞くべき内容ではないかもしれませんが、過疎地域をどうするか、その辺の視点はどのようなのでしょうか。人口減少というところが必ずしも一様に地域全体で起こるわけではなく、特定の地域に集中して起こっていくと思うのです。その地域をどう対策というか、どう見るかという予測と、それを前提にした何か新しい動きをするということが必要なのではないかと思うのですが、このまま行くとその辺が抜けてしまうような気がするのですが。

○部会長

私も同じ意見です。多分、特定の地域では既に起こっているということなのです。これから少子高齢化、過疎は日本全部をどんどん覆ってきますので、そういう視点でどうかということですね。いかがでしょう。

事務局

おっしゃるとおり、過疎地域のそのような問題も重要だと認識しております。経済見通しにつきましては、県内の地域、地域という積み上げではなくて、数量的には茨城県全体としてマクロで見ているので、例えば、県北地域の過疎地域がどうなっていくのかという部分を今すぐ数量的に示すというのは難しいのでございますが、ただ、一方で、基本戦略のところでは地域づくりの方向も全体像の資料の中に入っていると思うのですが、今後、総合部会でご議論いただく予定になっております。そこで、経済見通しという形ではなく、地域の現状と課題的な部分で資料的なものを整理して、その上でご議論いただければと考えております。

○部会長

それでは、経済見通しの中では、県北などという特定なところではなく、県全体として見ているということで、具体的には詳細に書かれていないということですね。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。本日はこれで終了したいと思います。

事務局からその他連絡事項等ありましたらお願いしたいと思います。

事務局

長時間にわたるご議論，ありがとうございました。

本日お配りしております資料の中に，新しい県計画策定に関する市町村意向調査結果の概要が参考資料で付いておりますが，こちらは，時間の都合がございまして説明を省略させていただいておりますので，後ほどご覧いただきたいと思います。

続いて，次回の総合部会でございますが，予定は6月下旬頃の開催を予定しております。日程につきましては，部会長さん，副部会長さんと調整をさせていただいた上で，再度，皆様方と調整をさせていただくことにしております。

また，第2回目の専門部会につきましてこれから取り行うということでございます。住みよいいばらきづくり専門部会が5月20日，活力あるいばらきづくり専門部会が5月25日，人が輝くいばらきづくり専門部会が5月27日にそれぞれ予定されております。本日，この中でお決めいただきました基本戦略，基本政策等につきましてご議論いただいた上で，いばらきモデルにつきましても検討いただければと思っております。

委員の皆様につきましては，お気づきの点等ございましたら，いつでも事務局にお申し出をいただければと思っております。

また，机の上に置いておきました県の基本計画の冊子でございますが，また次回，ご用意させていただきたいと思っておりますので，そのままでお帰りいただきたいと思っております。

事務局からは以上でございます。どうもありがとうございました。

それでは，第2回目の総合部会をこれで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

午後3時15分閉会